

克己心身を練れ
勤勉実力を養え
至誠事に当れ

第 194 号 令和 6 年 12 月 23 日 (月) 静岡県立富士高等学校 静岡県富士市松本 17 番地
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fuji-h/home.nsf> 電話 (0545) 61-0100

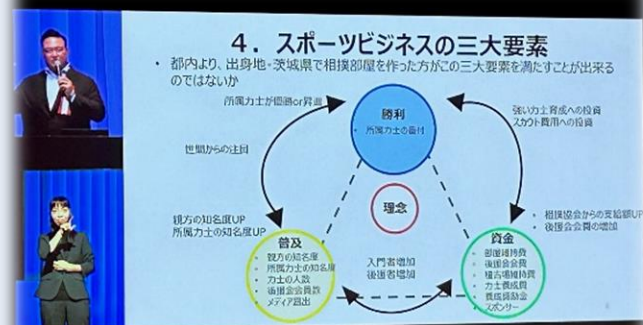
「全国高等学校 P T A 連合会大会 2024 茨城大会」

富士高 PTA 会長 橋本 剛

令和 6 年 8 月 22・23 日、水戸市を会場に全国から約 6,000 人が集まり、「全国高等学校 PTA 連合会大会 2024 茨城大会」が開催されました。「歴史の町で変革を!! ~新たな時代が目に入らぬか~」を大会テーマに、1 日目は 5 つの分科会 (5 会場) が行われ、当校は事前申込みした「これからのコミュニティ・スクールへ地域社会との新たな連携・協働~」について学ぶ第 5 分科会に参加しました。

基調講演の講師は、国立教育政策研究所総括研究官の志々田まなみ氏でした。そもそもコミュニティスクールとは、地域社会と連携して運営される学校のことを指し、学校教育法に基づいて、教育だけでなく、地域のニーズや問題に対応するため地域のリソースや人材を活用し、地域住民や保護者などが教育に参加するなどの活動を行います。地域の特性に合わせた教育活動を行うことで、子どもたちの学びや成長を支援し、学校の基本運営方針の承認、学校運営、教員任用へ意見する役割も担っています。

講演では、地域の特性を活かした活動事例を聴き、全国では大半が導入され活動されているようで、また、静岡県内においては来年度以降導入する準備の段階であるようです。導入されれば、社会の一手手前の高校生活動を支える一助になると期待します。



2 日目は、二所ノ関 (第 72 代横綱・稀勢の里) 親方の記念講演でした。人材育成の不易流行と題して、現役引退から親方となり相撲部屋の活動、力士との接し方など、現役時代は多くを語らなかった親方のお話に聴き入り、あっという間に 2 日間の日程が終了しました。

残暑厳しい茨城でしたが、矢端教頭、栗原先生と同行させていただいた 2 日間は大変有意義でした。

「令和6年度『PTA 進路講演会』の報告」

富士高 PTA 富士宮支部長 寺井 寿典
講演会担当 長坂 光弘

富士高 PTA 本部事業の1つであります「PTA 進路講演会」が令和6年9月27日（金）ロゼシアターにて、小林校長先生や PTA 担当で総務課長の田中先生、橋本 PTA 会長、ほか多くの先生方のご臨席のもと、196名の父母の方々にご参加頂き、今年も盛大に開催されました。

例年、外部から講師をお招きする第1部と、富士高進路課にご協力頂く第2部で構成されておりますが、今年は第1部に富士高が生んだ小説界のスーパーstar「横関 大」様、第2部では大学進学の特化で富士高進路課長「奥村先生」をお招きし大変貴重なご講演を頂きました。

横関様には「元公務員作家の日常」と題して、市役所勤務をしながらの執筆、退職のきっかけや独立してからの様子、ドラマ化されるまでの人との縁、等々のお話を富士高OBの立場からお話いただき、講演後のアンケートでは「小説やドラマのできるまでが聞けて楽しかった」「信念を通せば願いが叶うと思いました」「努力の仕方や人との縁などとても参考になりました」と大変好評な講演となりました。



また、奥村先生には「将来につながる進路選択」～大学入試のトレンドと実態～と題して、データを駆使して作成された詳しいスライドで、大学受験や日頃の学習方法について大変わかりやすいご講演をいただき、講演後のアンケートでは「具体的な数字で説明下さりわかりやすかった」「進路選択や入試について色々な情報を教えて頂きとても参考になりました」「あなたの子供は頑張っているのだから自信を持ってください、という言葉が嬉しかった」等々、多くの驚きや感謝のお言葉をいただきました。



この PTA 進路講演会をとおして、保護者の皆様に少しでも子育てのお役に立てていれば大変嬉しく思います。

今後もより良い PTA 活動を継続出来るよう、皆様のお力添えを頂きながら進めて行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



『令和6年度『PTA茶話会』』

富士高 PTA 富士宮支部 茶話会担当 佐野 英俊

令和6年10月25日(金)、富士山本宮浅間大社の参集所にて、富士宮支部独自事業『茶話会』が行われました。

茶話会とは、富士高卒業生の保護者から受験に関する経験に基づいた貴重なお話を聞くことが出来る毎年恒例の行事となります。富士高からは小林校長、田中先生にご出席頂き、令和4、5年卒の保護者の方9名、在校生の保護者48名(内、橋本PTA会長、富士支部、吉原支部参加)の総勢59名で催されました。



午後7時、大広間にてミスター茶話会こと鈴木さんにより、テンポの良い進行で茶話会開始です。昨年度の反省点でもあった、学年ごとの方が聞きたい内容が一致するのでは？という観点から前半と後半の班分けをしました。

前半は卒業生の保護者からお話が始まり、初めは参加者の皆さんは聞いた話を、熱心にメモを取る姿が見られました。質問する場面ではそれぞれが抱えている悩みを話し、卒業生の保護者、小林校長、田中先生などからの的確なアドバイスを頂いていました。

後半に入ると、参加者の方々から積極的に質問が飛び交い、あっという間に時間が過ぎていきました。

今回の茶話会では、塾選び、文理選択、親が出来るサポート方法、受験スケジュールの作成、受験時のホテルの早期予約、下宿先の選び方等、多くの貴重なお話を聞く事が出来ました。来年度も開催予定でありますので、是非参加して頂き受験に役立つ情報を入手してください。



「令和6年度『PTA バス研修旅行』」

富士高 PTA 吉原支部 片岡 律子

令和6年11月4日(月)に吉原支部の主催で、先生方を含む総数84名でお天気にも恵まれ横浜国立大学見学・横浜散策のPTAのバス研修旅行が執り行われました。

横浜国立大学では富士高校卒業生で横国大生の3人がお出迎え、大学の案内をしてくださいました。歴史ある国立大学である為、広大な緑豊かな土地で共に構内を歩きながら5学部の説明をして頂きました。



経営学部は国公立大学では神戸大学と横浜国立大学の2校しかないことや、各学部の特色・学科の説明・学生の特色・大学受験の仕方・入学してからのテストや生活の様子・寮や大学の周りの環境・一人暮らしの家賃相場等、入学してからの学生生活が容易に想像出来る内容でとても有り難く、我が子の未来を空想しながら皆さん傾聴していました。





次の訪問先は横浜の市街で約4時間弱の自由時間を市街地の地図を片手に各々散策しました。日常から離れ、いつもゆっくりとお話できない御父兄の皆様と顔見知りになれたこと、お近づきになれたこと、学びと楽しみと充実した1日となりました。行程通り大きな問題もなく終始和やかな雰囲気での研修旅行を終えられましたこと、ご協力頂きました先生方、学生の皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。



～高原教室と「上毛かるた」～

静岡県立富士高等学校教頭 矢端寛之

60年以上続く本校の伝統行事、「高原教室」に今年も団長として参加しました。今年は尾瀬、谷川岳で登山・ハイキングを行った後、つくば市に移動して研究施設を見学するという行程でした。群馬から埼玉を経由して茨城に至る、いわば北関東を巡る旅でしたが、群馬県で生まれ育った私にとって、郷愁を誘う思い出深い4日間となりました。

旅行の初日、2日目は水上高原ホテルに滞在しましたが、総支配人さんや現地で合流した看護師さんと群馬県民ならではのローカルな話題で大いに盛り上がりました。ローカルな話題の中でよく出てくるのが「上毛かるた」です。

「上毛かるた」は昭和22年に誕生しました。敗戦直後の暗く、荒んだ世の中で育つ子供たちに明るく楽しく、希望をもてるものを与えたいという思いから作られたそうです。郷土かるたは一時期ブームとなり2000以上発案されましたが、定着したものは多くはありません。その点、「上毛かるた」は競技県大会が今年で75回目の開催を迎えたほか、平成25年からは「大人たちの上毛かるた日本一決定戦『KING OF JMK』」が始まるなど群馬県民に愛され定着した郷土かるたと言えるでしょう。思えば、私も小学生の頃は毎年、県大会出場を目指して予選会に参加していたものです。富士高生が百人一首を覚えるように、群馬県民は「上毛かるた」を覚えているのです。

「上毛かるた」の札には、群馬県の人物、地理、風物などが幅広く読まれています。その中に静岡との共通点を見いだすこともできます。たとえば、㊦「雷と空風義理人情」からは、赤城山から吹き下ろす「空風」と遠州の「空風」を結び付けることができます。また、㊧「裾野は長し赤城山」からは富士山とのつながりを感じることができます。(赤城山は高さはないが、裾野だけ見ると富士山と同じくらいだという意味) 今回の高原教室では、3日目の出発式で、滞在した場所を覚えてほしいという願いから㊨「水上、谷川スキーと登山」という札を生徒諸君に紹介しました。

北関東3県は、全国的に知名度が低いと言われていますが、今年度の都道府県魅力度ランキングで群馬県は29位になりました。埼玉県が46位、茨城県が45位に留まる中で、群馬県の躍進が際立ちます。「上毛かるた」も魅力向上に一役買っているのかもしれません。高原教室を通じて生徒諸君にも群馬の良さを少しでも感じてもらえれば幸いです。



< 3 年部だより >

3 年学年主任 石川貴子

3 年生は現在自分の進路実現に向けて毎日一生懸命に勉強に励んでいます。授業やテスト中心の生活の中で行事は気分転換になり今の自分を客観的に考える良い機会になると思います。また、仲間の大切さも再認識できます。受験は個人の戦いですが、隣に同じ思いで頑張っている人達がいれば友の姿に鼓舞され、勇気づけられます。仲間の存在は大きいです。先日京都大学と東北大学の OBOG 講話を開催しました。先輩方は自分の体験や思いを赤裸々に語ってくれて在校生にとっては本当に心強いエールになったことと思います。富士高校は横のつながりだけでなく縦のつながりも強いです。

生徒は行事を通して様々な経験をする中で、考え方が広がり成長したと思います。何事にも全力で取り組める姿勢は必ず勉強にも生きてきます。今は不安で辛い時だと思いますが、頑張った経験は決して無駄にはなりません。3 月に笑顔で富士高校を巣立って行けるように今できることを全力でやって下さい。

2 学期も様々な行事がありました。代表の生徒に行事を通して感じたことを書いてもらいました。

『鎌倉遠足』 3207 遠藤有沙

遠足に行く前、鎌倉での滞在時間を聞いて、正直短いと感じてしまった。でも実際に行ってみると確かにあっという間ではあったが、友達とたくさん笑い本当に楽しい時間を過ごせた。帰りのバスで同じ班の友達が、受験が終わったらこのメンバーで思いきり遊ぼうと言ってきて、私はとても嬉しかったが、みんなと学校で毎日会えるのもあと数ヶ月だと思うと、急に寂しくなった。受験勉強で手一杯の日々でも、仲間と学校で集まれる残りの時間を大切にしたい。

『鎌倉遠足』 3739 渡邊 怜夏

私は今回の遠足の行き先が鎌倉だと知った時、横浜が良かったと思っていましたが、鎌倉最高でした。鎌倉すみませんでした。食べ物も美味しい上に、江ノ電から見える景色の変化がとても新鮮でした。私の班は、初めに鎌倉のお洒落なパンケーキ屋さんに行き、それから江ノ電に乗って海を見に行ってから小町通で散歩しながらお土産を買いました。路面電車に乗るのは初めての経験で、ずっと外の風景を見ていると鎌倉の街並みから海のキラキラした景色に変わって改めて晴れて良かったと感じ、友達と誰が濡れずに一番海に近づけるかゲームもできて、とても楽しかったです。小町通をゆっくり歩けなかったことに後悔があるので、また個人的にいきたいです。

『球技大会』 3528 長澤 勇太

授業数が他のクラスと比べて少ない状況の中で、どうやったら球技大会で良い成績を残せるかどうかを考えたところ、ショートパスを繋ぎクラス全員でゴールまで運ぶことが大切だと思い、授業では、みんなで基礎をしっかり固めることに焦点を置き練習してきました。そのため他のクラスが緊張してロングパスを失敗している中で、ショートパスをし続ける自分達らしいプレーで優勝を勝ち取りました。どのクラスよりもパスを繋ぎ、どのクラスよりも楽しんだチームだったと思います。

七組の仲間と共に戦う三度目の球技大会が幕を閉じた。一年生の頃から目指してきた優勝を果たすことができ、みんなで喜びと感動を分かち合った瞬間は忘れられない。また、決勝戦の前に十四人で組んだ円陣はこれまでとは比べものにならないほど力強く、今も私の心に残っている。一人一人が自分の役割を見つけてそれを全うし、常に前向きな言葉をかけ合って、三年間で培った絆を存分に発揮できたからこそつかめた優勝だと思う。三年間を通して、クラス全員で一つのゴールに向かうという経験をたくさんしてきた。中でも、受験を間近に控えたこの時期に、クラス一丸となって優勝できたことはとても大きな意味を持つと思う。勉強にも行事にも全力を注ぎ、強い意志を持ってゴールへ突き進むことができる最強な 37HR の一員であることに感謝しながら、残り少ない学校生活を走り抜きたい。

< 3 年男子 アルティメット >

☆優勝チーム(35HR)と準優勝チーム(33HR)が試合後共に撮った写真です。



< 3 年女子 バレーボール >

☆優勝チーム(37HR)と準優勝チームが(32HR)が試合後に撮った写真です。



< 2 年部だより >

2 年部学年主任 佐藤 純

10 月 8 日～11 日に高原教室が行われました。今年は高原散策が 1 日となり、新たにつくばサイエンスツアーを体験しました。高原の日に雨が降り、至仏山、谷川岳の登山コースは中止、全員尾瀬ヶ原と一の倉沢へと変更となりましたが、生徒は「仲間とともに楽しむ」気持ちで臨機応変に対処し、満足のいく高原教室となりました。実行委員を中心に、学年が一つになって行事が成功できたことは、生徒にとって大きな自信になったと思います。今後学校生活の中心となることを自覚し、活動の充実に向けて取り組む様子が日々見られます。生徒の大きな成長の機会と 2 学期でした。

また、夏休みを利用して、海外留学体験をした生徒もいますので感想をもらいました。

○24HR 寶持 藍

高原教室の最大の目的である二日目の山登りは、私にとって一番の楽しみでした。

一日目の夜、気持ちの高ぶりで眠れず、明日を迎えるのが待ち遠しかったです。しかし翌日の天気は土砂降りの雨でした。それでもきっと登れるだろうと期待していましたが、その夢は叶えられませんでした。私は至仏山に登る予定でしたが、急遽変更され、尾瀬ヶ原を歩くだけのコースになってしまいました。楽しくないだろう、山に登れないのは高原教室に来た意味がない、そう思っていました。しかしそれは大きな間違いでした。尾瀬ヶ原はどこまでも壮大に広がる草原で、そよ風が吹き、私達の心を綺麗な青で染めていくように感じました。ガイドさんにも尾瀬のことを多く伺い、帰り道ではとても仲良くなることができました。

至仏山に行っていたら味わえなかった体感、この経験を一生の思い出とし、私の一生の宝として心に閉まっておきたいと思います。



○23HR 川名 麻子

山に登るならちゃんと登りたい、そう思って天神尾根を選びました。日本で一番死者が出ている山と聞き、どれだけスリルがあるのかと楽しみにしていました。雨予報でどうなるのか心配だった一日目、登頂したいと思っていた気持ちとは裏腹に、地面がぬかるんでいて危険ということで予定されていたコースで登ることはできませんでした。しかし、私たちに登らせてあげたいと考えて下さったガイドさんのおかげで少しだけスリルのある道を登ることができました。滑る木の板の上、手を使って登った急斜面の岩場、足を踏み外したら一気に落ちる道、初めての経験で新鮮で、私はグループの先頭をガイドさんに続いてずっと歩いていました。富士高だけ山登りかに行く前は思っていました。しかし頑張って頂上まで言った達成感はかけがえない思い出になりました。この 4 日間は忘れることができない、私はそう思います。

○26HR 若林 花波

待ちに待った高原教室一日目、私たちは富岡製糸場に向かいました。あいにくの雨模様でしたが、バスの中でのクラスメイトの声はとても軽やかで、私もとてもわくわくしていました。富岡製糸場につくと荘厳な煉瓦積みの建物が私たちを出迎えてくれました。少し肌寒く、小雨も降っていましたが、案内をしていただきながら話を聞いていくうちに昔ながらの色合いでありながら現代にまで引き継がれるような建築技術とここに流れる長い歴史に夢中になっていました。普段は学ぶことのない日本の歴史に触れ、実物を見ながら体感することで新しい発見と感動を得ることができました。

富岡製糸場から始まった四日間の高原教室を通して、様々な立場から物事を見ること、一歩先、二歩先を見て行動することを学びました。これからの学校生活でも学んだことを活かして過ごしていきたいです。

○27HR 望月翔平

私たち2年7組は、高原教室での初めての試みとして、つくばの実験・研究施設を訪れるつくばサイエンスツアーに参加しました。普通科6組が散策した川越にもよらず、可能な限り長く最新の学問や研究について知り、体験したのです。その中でも、筑波実験植物園での興奮は殊更に得難いものでした。乾燥帯の植物から高地性の植物まで、普段見ることのない植物の数々を目にして、座学だけでは決して味わえない楽しさを満喫しました。また、野生動物絶滅種であるコシガヤホシクサの研究保全活動など、研究施設としての側面も実感し、人間活動と自然の関りについて考える機会にもなりました。世界中の植物種が集まった、大英博物館もかくやという植物園でしたが、他のどの施設も、高原教室後半の疲労を忘れさせる、大変興味深い場所でした。これからの進路選択や目標の下地として、今回の有難い経験をかみしめて学校生活を頑張っていきたいと思います。

☆夏休みを利用して、海外留学体験をした生徒も数名いました。

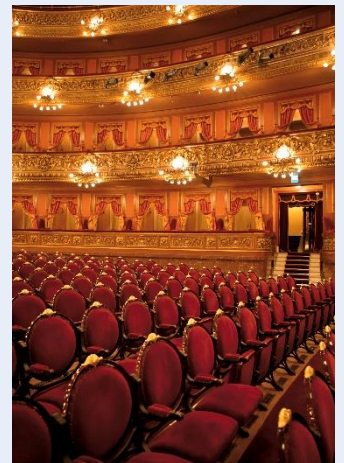
○22HR 齋下日和

「もっと色んな人に出会って世界を知りたい」「演劇の魅力で人と人を繋げたい」と考えていた私は今年、一つの挑戦をした。イギリス・ロンドンへの三週間の留学である。演劇教育や舞台が盛んなイギリスで人と関わり、演劇との接点や自己表現が希薄な日本との比較をしたいと考えたのだ。

探究活動の中で上手い出来ないことも多くあったが、私を支えてくれたのは人との繋がりだった。例えば観劇に出かけると、日本よりリアクションが大きく劇場の一体感が感じられた。今この場にいる全員が同じ興奮の渦にいるのだと思うと何だか嬉しかったし、演劇のもつ力を信じていてよかったと涙があふれる瞬間もあった。またホームステイや語学学校、演劇学校の体験授業で出会った人、皆が温かかった。

「sunshine」とニックネームで呼んでくれ、私の辿々しい英語も最後まで聞いてくれた。自分から知ろうとし、知ってもらおうとする気持ちを忘れないようになった。日本にいる家族や友達からのメッセージも心の支えだった。一人で実現できた留学ではないことに改めて感謝した。

そして日本に帰ってきて一番強く感じたのは、英語圏にいたときより自分の考えを明確に言語化できる喜びだ。だから私は今、留学に行って感じたこと、演劇のもつ力、支えてくれた人たちへの感謝、それらすべて言葉にして人の心を動かせる人間になりたいと思う。日本語と英語両方の語彙を増やし、演劇を極め、私が一方的に自分の世界を広げるだけでなく相手も視野を広げられるような、私の言葉の元になる豊かな経験をこれからも積んでいきたい。



< 1 年部だより >

1 年部学年主任 野村 裕子

「部活動、学校行事、生徒会活動等に積極的に参加すること」が今年度の1年生の目標のひとつです。現在、多くの1年生が部活動や学校行事に一生懸命取り組んでいます。また、自分の進路に応じて、希望者対象の行事にも多くの生徒が参加してきました。学校が主催する様々な活動や行事を通して、人間関係の形成の仕方を学び、互いの能力を認め合い、自己評価を高めることにつなげてほしいと考えています。それぞれの活動や行事を通して、生徒が経験したり考えたりしたことを感想として寄せてもらいました。

〇7 月 19 日 080G 企業訪問 14HR 加藤春羽 (SBS 静岡放送株式会社 / 静岡新聞社訪問御礼文より)

見学の中で、新聞記事の優先度についての話が一番心に残っています。話に出たのは少しだけでしたが、地方通信社等から渡される記事についている優先順位をそのまま適用するのではなく、地方に関することを重視して入れ換えている、という話です。最初に伺った「不偏不党」の静岡県民がよりよく生きられるようにするという話にも繋がっているように感じました。私の所属する新聞部でも、学校と地域に密着した記事作りを心がけています。会社全体で静岡県のためを考える貴社の姿を見習いたいと思います。



〇7 月 19 日 080G 企業訪問 15HR 二宮未来 (静岡県庁富士農林事務所訪問御礼文より)

農業といえば、作物をつくったり収穫したりすることだけだと思っていました。しかし、企業訪問をしてみて、農業者の意向を大切に地域の方とのコミュニケーションを図り、農業における土地や労働の生産性を高める農業土木職という仕事があることを新しく知りました。自分たちの県の特産品であるお茶の茶畑の整備や、笹場の紹介をされた時は、お茶がとても好きなので嬉しかったです。また、プライベートな話や、私たちの進路について人生の先輩に相談できたのは、とてもよい機会となりました。

〇7 月 30~31 日 理数科野外実習 17HR 小野 穰一郎

僕は野外実習を通して、富士山とその周辺の自然の美しさとその自然を守っていくことの大切さを感じました。初日の風穴では氷筍と呼ばれる氷の柱があり、それは風穴の天井からの水滴が固まって大きくなるものですが、地球温暖化によって溶けてきており、もう数十年後には消えてしまう可能性が高いと聞きました。こういった貴重な自然界の資料を守るためにも、僕たちは環境問題に向き合っていかなければならないと改めて思いました。また、野外炊事でのカレー作りで、班の仲間と協力し何とか美味しいカレーができた時の達成感は、忘れられないほどのものでした。今回の野外実習で深まった絆を、これからの学校生活でも大切にしていきたいです。

○8月5日～9日 グローバルスタディーズプログラム 12HR 勝又鼓多瑠

この研修に行くと、英語が苦手な人でも英語に自信がつくと思います。進行をしてくださる先生方を中心に、グループの中で様々な内容を英語で議論します。具体的には、自分のアイデンティティについて話し合ったり、MBTI 診断を活用して自分の強みを見つけたりします。そして最後は「自分の強みを生かして社会にどう貢献するか」をテーマに全員の前でプレゼンを行います。この研修で分かった重要なことは、英語に囲まれば自然と英語が身につくということです。よく「一年間英語圏にいれば話せるようになる」と言いますが、この5日間でもかなり身についたので本当だと思います。私も将来、留学のチャンスがあればしてみたいです。

○8月8日 東大見学会 13HR ウルビタ ティマティ 蓮美

東大に入るだけでワクワクが止まりませんでした。施設内見学では総合研究博物館を見学し、大昔の生物や土偶なども展示されていました。本校のOGでもある高井まどか教授の講義では、教授が人の役に立つために工学と医学を組み合わせる様々なものを作っていることを知りました。無痛針を作ったとおっしゃっていて、多くの人が嫌がらずに使ってほしいという思いを実際に物にしていることが素晴らしいと思いました。OBOG との交流会ではためになる話がとても多く、メモを書く手が止まりませんでした。苦手な科目は効率を重視して何度も繰り返すことや、文系は特に本を日頃から読んで色々なジャンルに触れるといいなど聞きました。ストレス発散方法や、ストレスをまず溜めない勉強法なども教えていただきました。大学生活についても話していただき、夢が膨らんでとても楽しい時間でした。自分から質問できたので知りたいことがさらによく理解できた気がします。今日の一日のおかげで勉強のモチベーションが一層上がりました。今日の経験を忘れずにこれからさらに頑張っていきたいと思います。

○10月11日 保育実習（富士保育園訪問） 11HR 赤石真依

子どもとの関わりを通して、子どもにもきちんとした自分の意思があること、そして、多様な性格や思い、発想を持つ子がいるのだとわかりました。また、私たちが想像もしていなかった動きをしたり、すぐににこにこしながら甘えてきたりしてとても癒されたし、人を幸せにする力を持っているのだとわかり、私たちまでほっこりした温かい気持ちになりました。また、計画の中で、色々な目線になって考えて、子どもを楽しくさせる方法などたくさんアイデアを出せてよかったです。

○10月11日 保育実習（なかじま保育園訪問） 16HR 川端大晴

準備がギリギリまでかかってしまい、当日の流れと動きを班員と共有するのも直前になってしまったのですが、みんなその場その場で柔軟に対応してくれて、特に大きな問題もなく実習を終えられました。爪や髪、身だしなみも問題なく、しゃがんで目線を合わせることや笑顔で接するなど、授業で確認したこともきちんと活かしていたと思います。何より、みんなが緊張した笑顔ではなく、自然な笑顔で園児たちとの関わりを楽しんでいる様子だったことが一番良かったと思います。



○10月29日 理数科サイエンスツアー 17HR 松下 公波

私たち理数科はサイエンスツアーで国立科学博物館に行ってきました。博物館には様々な展示があり、多くの新しい知識を得ることができとても充実した時間でした。私が特に印象に残った展示は高山植物の展示です。7月に野外実習で宝永山に登った時に見た植物について知ることができ、高山植物への興味が深まりました。高山植物には紫外線防御物質が多く含まれていることを知り、厳しい環境の中で生き抜くための仕組みに驚きました。他にも恐竜や人類の進化など興味深い展示がたくさんあり、幅広い分野への関心が深まりました。今回学んだことを生かし、富士山探究の研究がよりよいものになるように全力を尽くしていきたいです。

○11月11日 浜松医科大学訪問 11HR 木村 圭

浜松医科大学の見学会に参加し、大学の最先端の施設に触れたことで、自分が医学部を目指している実感が湧きました。特に研究環境が整っていることに感銘を受け、僕もその環境の下で研究したいという思いが強くなりました。OB・OGの方との交流会では、先輩方が医学部受験の経験談を交えながら、勉強面だけでなく生活面でもアドバイスしてくださったのでとても参考になりました。また、同じ富士高生と見学したことで、共に夢を追う仲間との絆が深まり心強く感じました。僕はこの経験を通じて、目指す道において共に支え合いながら進んでいく仲間の存在の大切さに気づき、さらに一層努力したいと決意を新たにしています。

○11月13日 球技大会 男子ハンドボール 12HR 木村 悠也

練習当初は、自分を含め基本的なルールすら知らず、パスキャッチもまともにできない人が多くいる中で優勝できるのか？という不安もありました。しかし、みんなが「優勝」というひとつの目標を掲げ、チームや個人の得意なプレーと不得意なプレーを明確にして、日々の練習でよいところを伸ばし悪いところを徹底的に改善したことが、勝利の秘訣だったと思います。また、本番ではクラスの仲間たちによる全力の声出し応援によって、大会中にもより一段と成長できたと思います。全員で本気で楽しくハンドボールができたうえに、優勝で終わったということでクラスの絆がより一層深まり、とてもよい球技大会であったと思います。

○11月13日 球技大会 女子ハンドボール 17HR 野澤 優妃菜

体育の時間以外でもどうすれば勝てるか何度も話し合い、時には相手チームの練習を見て考えることもありました。人数が7人しかいなかったため大変だった場面もありましたが、その分練習することができて一人一人の技術や連携プレーが上達しました。本番は相手チームの特徴に合わせて戦い方を変え、試合を行いました。練習の時よりもレベルの高い相手チームのディフェンスに翻弄されることもありましたが、チームワークを生かしパスを回して得点を重ねることができました。私自身も皆がいてくれたからこそ、様々なプレーに果敢に挑戦することができました。私たち理数科はあと2回同じメンバーで球技大会を行えるのでよりチームワークを築き、来年、再来年も優勝したいです。

※本校理数科『課題研究発表会』を、明日12月24日（火）13:00～ロゼシアター小ホールで開催します。

予約不要・無料でお待ちしております。

今年の最優秀賞はどの班になるでしょう？

⇒各班の中間発表はこちら。